審 査 員 特 別 賞

「　人生　」

経済学科　１年　柴犬（P.N.）

チュンチュンチュン、長閑な渓谷の静かな朝に、小鳥の囀りが聞こえる。

サラサラと、川のせせらぎが聞こえる。

朝日が昇り、静かにご飯を食べ、自然とともに静かなひとときを過ごす。

いつか私もそんな一日を過ごしてみたい。

高校三年生の時、私は人間的に大きく成長し、変化したと同時に人生の岐路に立った。

大学受験だ。

受けるも受けるも悉く落ち続けた。

どうしよう、どうしよう。コップの水を飲むのに約 10 分。心は焦り、緊迫した状況だった。

人から罵声のような言葉を浴びせられた時もあった。

しかし私は毅然として反論した。

「頑張って！」と声をかけてくれた友人、母や妹からは「大丈夫！」と言ってくれた。

人生の暗闇にでも支えてくれる人がいるということを実感した。

言いようのない不安に駆られながらも私は次に受験する大学を必死に模索していた。

範囲は近畿圏では収まらず、軈て西日本全域にまで範囲を拡大させた。

もう何が何だか分からなくなった。焦りながらも無我夢中になり必死に探し続けた。

そして漸く二つの大学に合格することができたと分かったのが十二月下旬に入った頃だった。

高校一年生の時から三年生の時まで様々な大学を調べた。

静岡、京都、奈良、和歌山、兵庫、愛媛、福岡、沖縄。

もし、それらの大学に行っていたら多分、私は今頃この文章を書いていなかっただろう。

Time is money.人生の時間は限られている。

つらい時、悲しい時、苦しい時、生きるのに疲れた時、嫌なことがあった時、

複雑な気持ちの時や自分を見失ってしまった時、葛藤している時など、焦らなくてもいい。

ゆっくりと考えることも、心身を休めることも時には大切だ。

そして何より生きることが大切だ。私は今、生きていることが少し不思議だと感じる。

「つらいことがあってこそ、価値がある」

私が考えた座右の銘だ。

生きていれば何とかなる。生きてさえいれば。

生きていれば良いことも悪いこともあるだろう。

それが人生であり、また現実味があって面白いと感じる。

これからがこれまでの自分を変えてゆくだろう。